

0～16歳までの子ども2,452人の親に聞いた「子どもの花粉症」調査結果

**父母が実感する「子どもの花粉症」は、2012年25.7%→2014年32.7%へ増加。
「花粉症」は、「アトピー性皮膚炎」(10.6%)の約3倍以上に。**

■発症年齢は“5歳まで”43.8%、“10歳まで”80.4%で、低年齢化傾向

■目の充血やかゆみがあっても、5人に1人は“目薬を使っていない”

ロート製薬株式会社（本社：大阪市／社長：吉野俊昭）は、2014年12月、花粉症対策への啓発を目的に、0～16歳の子どもを持つ父母を対象とした「子どもの花粉症」アンケート調査を実施しました。

このうち回答をいただいた父母1,522人及びその子ども2,452人の症状や実態等について、集計・分析を行いましたので、小児アレルギー専門医の見解と合わせてご報告します。

【調査結果のポイント】

■「子どもが花粉症だと思う」は、2012年25.7%→2014年32.7%へ増加。

0歳～16歳の子どもを持つ父母のうち、子どもが「花粉症だと思う」と実感している割合は32.7%となりました。「花粉症だと思う」は、2012年のアンケートでは25.7%、2013年では28.8%となっており、子どもの花粉症が年々増加していると考えられます。（※医師の診断ではなく父母の実感によるものです。）

■子どもの「花粉症」は、「アトピー性皮膚炎」の約3倍以上。

父母が実感する子どものアレルギー症状について聞いたところ、「花粉症」（32.7%）、「通年性アレルギー性鼻炎」（24.7%）、「アトピー性皮膚炎」（10.6%）、「喘息」（8.3%）という結果になりました。「花粉症」は、「アトピー性皮膚炎」に悩む子どもの割合と比べると約3倍以上になりました。

■発症年齢は低年齢化。

花粉症の子どものうち、5歳までの発症は4割超。10歳までの発症は8割超。

自分の子どもの花粉症を実感している親にその発症年齢を聞いたところ、0歳から5歳までが43.8%（2012年36.6%、2013年41.8%）、0歳から10歳までが80.4%（2012年69.3%、2013年78.6%）という結果で、過去3年の調査と比較すると、花粉症の発症年齢の低年齢化がうかがえます。

■目の充血やかゆみがあっても、5人に1人の子どもが“目薬を使っていない”。

「お子様は目をこすったり、かいたりすることはありますか？」と聞いたところ、34.0%の子どもが「目や目の周りの皮膚を掻いている」という結果になりました。また「充血やかゆみがあり目をかいている」子どもは24.8%となり、これらの子どものうち19.0%が目薬を使っていませんでした。親が子どもの目のかゆみに気づいていても、約5人に1人が目薬を使っていない実態が明らかになりました。

【花粉症治療の専門医より】大阪府済生会中津病院小児科 免疫・アレルギーセンター 末廣 豊 医師

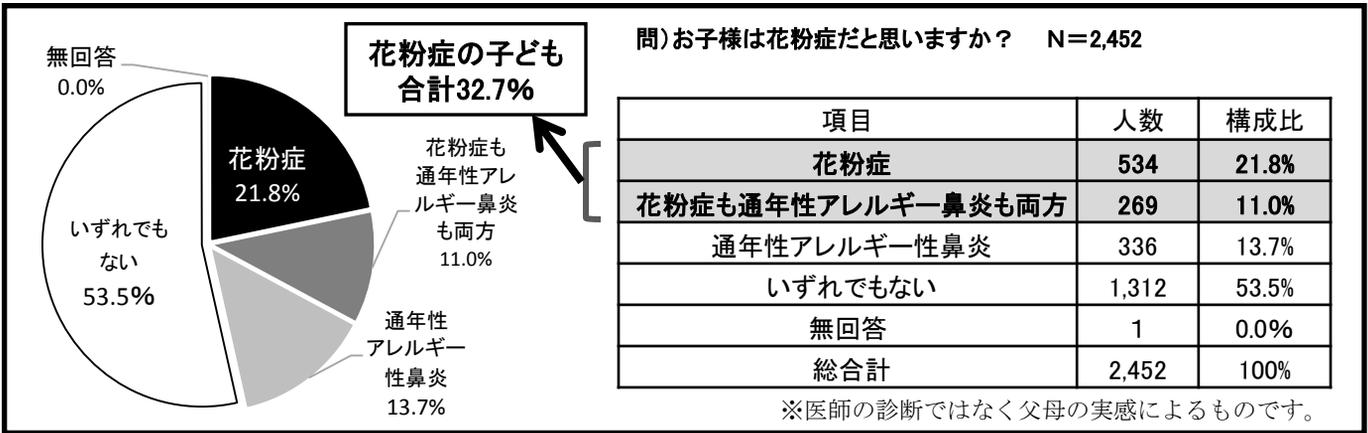
近年、花粉症の子どもの数は増加しており、今回の調査でも年々微増していることが分かりました。この傾向は今後も続くと思われます。症状は大人と同様に、目のかゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまり等が起こります。特に目のかゆみに関しては、手でかいたり、こすったりしても良くなり、目薬でかゆみを抑えることが有効です。小さなお子さんは自分では花粉症という事が分からず、大人のような典型的な症状がそろわないこともあるので、周りの人が小さなサインを見逃さないことが大切です。

調査結果

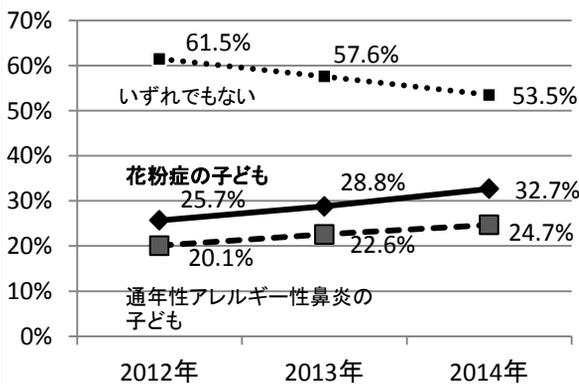
1)「子どもが花粉症だと思う」は、2012年25.7%→2014年32.7%へ増加。

0歳～16歳の子どもの持つ1,522人の父母の子ども2,452人のうち、「花粉症である」と親が実感している子どもは32.7%（「花粉症」＋「花粉症も通年性アレルギー性鼻炎も両方」）という結果になりました。

2012年に行った同様のアンケートでは、花粉症の子どもは25.7%、2013年では28.8%となっており、2年前と比較して7ポイント増加しました。このように過去3年の結果を比較しても親が花粉症であると実感している子どもの数は、年々増えていることが分かりました。



■花粉症・通年性アレルギー性鼻炎の経年変化(2012～2014年)

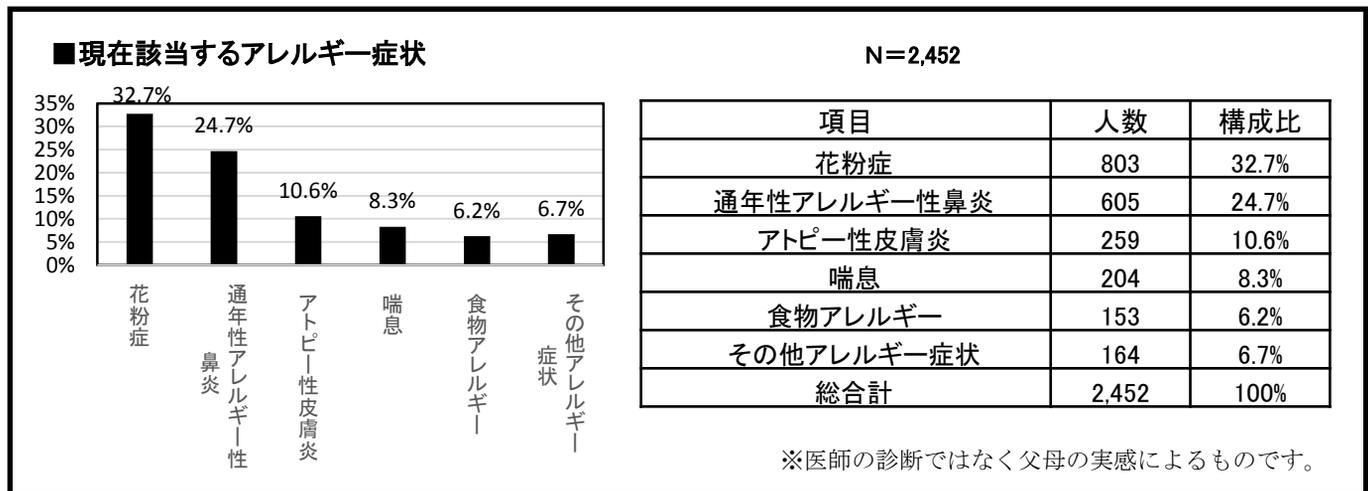


項目	2012年 N=4,371	2013年 N=3,475	2014年 N=2,452
花粉症の子どもの計	25.7%	28.8%	32.7%
通年性アレルギー性鼻炎の子どもの計	20.1%	22.6%	24.7%
いずれでもない	61.5%	57.6%	53.5%
無回答	0.0%	0.3%	0.0%

※医師の診断ではなく父母の実感によるものです。

2)「子どもの花粉症」は、アトピー性皮膚炎の約3倍以上に。

現在子どもが該当すると思う症状について聞いたところ、「花粉症」32.7%に対して、「アトピー性皮膚炎」は10.6%という結果になりました。花粉症はアトピー性皮膚炎の子どもの割合と比べると約3倍以上となりました。

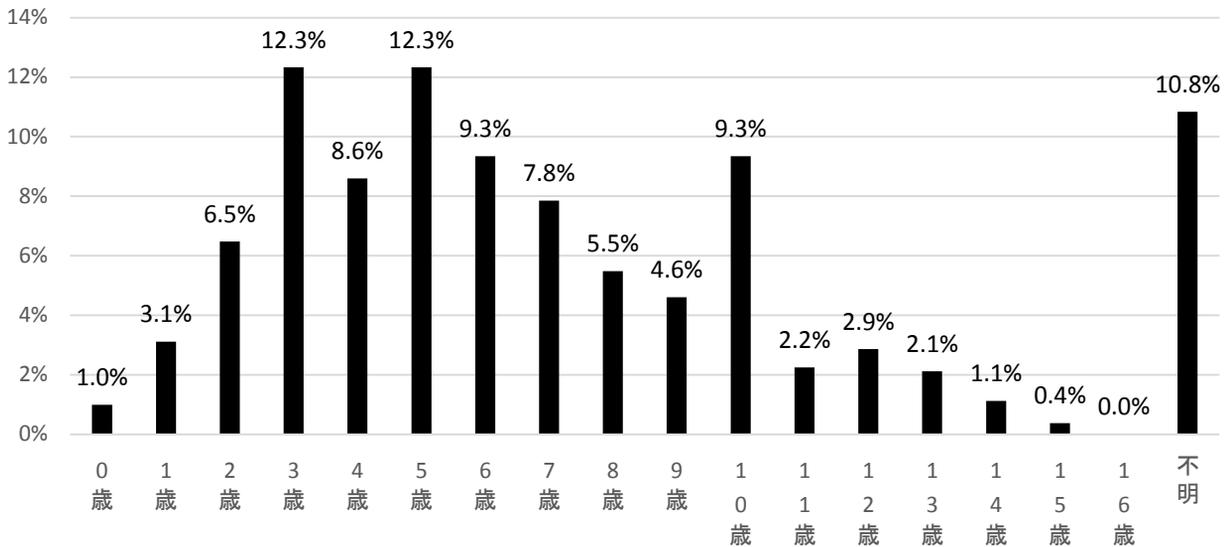


調査結果

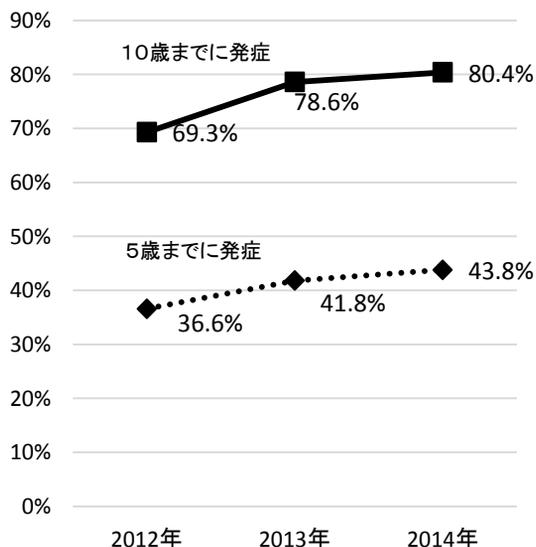
3)「子どもが花粉症だと思う」と答えた人に、発症したと思われる年齢を聞いたところ 5歳までに発症した子どもは43.8%。10歳までに発症した子どもは80.4%。

自分の子どもの花粉症を実感している親にその発症年齢を聞いたところ、「3歳」「5歳」と答えた人が最も多く12.3%となりました。0歳から5歳までが43.8%（2012年36.6%、2013年41.8%）、0歳から10歳までが80.4%（2012年69.3%、2013年78.6%）という結果で、過去3年の調査と比較すると、花粉症の発症年齢の低年齢化がうかがえます。

問)お子様は何歳で花粉症を発症したと思いますか？(「お子様は花粉症だと思う」と答えた方のみ回答) N=803



花粉症の発症年齢の変化(2012~2014年)



	2012年 N=1,122	2013年 N=1,002	2014年 N=803
0歳	2.2%	2.1%	1.0%
1歳	2.3%	2.5%	3.1%
2歳	2.7%	5.5%	6.5%
3歳	10.4%	11.0%	12.3%
4歳	8.3%	8.3%	8.6%
5歳	10.7%	12.5%	12.3%
5歳までに発症	36.6%	41.8%	43.8%
6歳	8.9%	10.5%	9.3%
7歳	6.4%	7.0%	7.8%
8歳	5.5%	5.0%	5.5%
9歳	3.3%	4.8%	4.6%
10歳	8.5%	9.6%	9.3%
10歳までに発症	69.3%	78.6%	80.4%
11歳	2.9%	3.3%	2.2%
12歳	3.3%	3.3%	2.9%
13歳	2.4%	1.8%	2.1%
14歳	1.0%	0.8%	1.1%
15歳	0.6%	0.7%	0.4%
16歳	0.2%	0.0%	0.0%
不明	20.3%	11.5%	10.8%
総計	100%	100%	100%

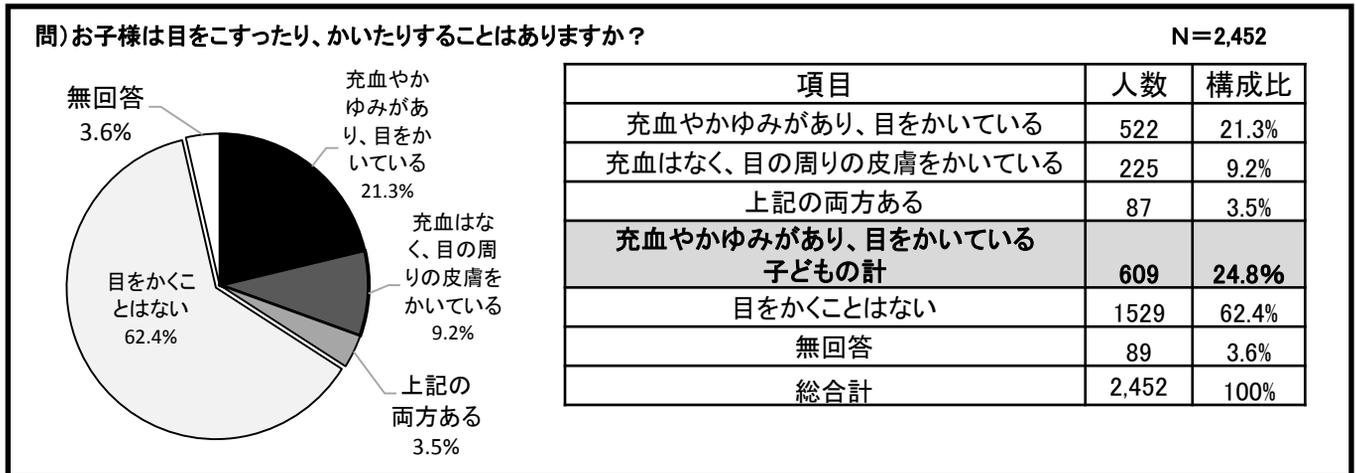
※医師の診断ではなく父母の実感によるものです。

調査結果

4)「目をこすったり、かいたりする」子どもは34.0%。「充血やかゆみがあり、目をかいている」子どもは24.8%

花粉症の代表的な症状のひとつである目の充血やかゆみ等について聞いたところ、「充血やかゆみがあり、目をかいている」は21.3%。「充血はなく、目の周りの皮膚をかいている」9.2%、「上記の両方ある」3.5%などと合わせると、子どもの目元に何らかの違和感を感じている人は34.0%となっています。

また、子どもが目をこすったり、かいたりしはじめる年齢は、「3歳」が最も多く11.9%。0歳から5歳までの合計が48.8%、0歳から10歳までの合計が82.9%となりました。（グラフ無し）

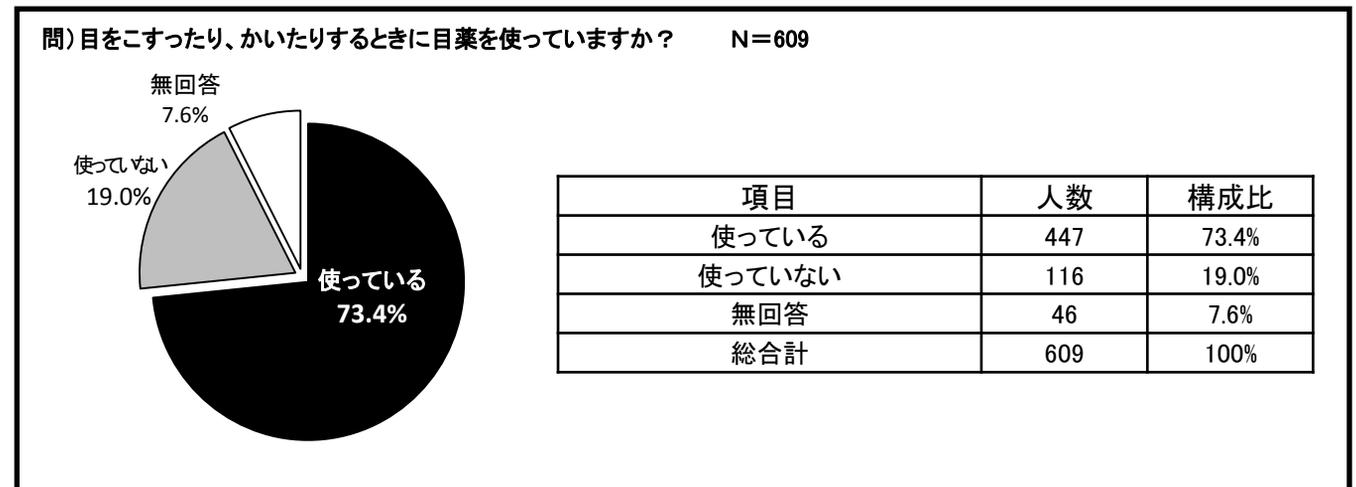


5) 充血やかゆみがあり、目をかいている状態で、目薬を使わない子どもは19.0%。

目の充血やかゆみがあっても、5人に1人の子どもが“目薬を使っていない”。

「目の充血やかゆみがあり、目をかいている」と答えた子どもの中で「目薬を使っている」とした人は73.4%。一方、子どもの目のかゆみに気づいているが目薬は使ってないという人は19.0%。約5人に1人が目薬を使っていないことが明らかになりました。

また子どもが自分で目薬をさせるようになった年齢は、10歳頃という答えが一番多く見られました。（グラフ無し）



問)お子様の花粉症に関して、困ったこと・対策・体験談などエピソードを具体的にお聞かせください。

■子どもにとっては苦手意識が強い目薬。点眼に苦労する親の声が多数

まだ自分ではさせないが、嫌がらなくなっさしやすくなった。小さい頃は暴れて目薬がさせず、馬乗りになって無理やりさしていた。小さい子でも嫌がらず、親も苦労しない目薬のさし方があれば助かると思う。

(40歳女性/12歳女子)

小さい頃、目薬をさす際に逃げたり動いてしまうので、仰向けにして両腕を私の両足で抑え目薬をさしていました。

(35歳女性/13歳男子)

初めは怖がっていたが、今は目を開けたままでいてくれるので苦労はありません。入れた後しばらくパチパチするときに、一緒にぱちぱちぱち。と言って楽しんでます。

(36歳女性/6歳女子)

■きっかけさえあれば、自ら進んで自然と点眼できる

学校に持参して自分で点眼できるよう目薬の練習をさせました。今年、岐阜県飛騨高山での真夏の林間学校に行きましたが、真夏だから大丈夫だろうと目薬を持たせなかったら、山登りの時に涙目とくしゃみでひどい症状になっらしく、アレルギーのある子は季節を問わず自然の多いところには目薬を持たせなくては、と思いました。

(40歳女性/12歳女子)

プールに通うようになったら自然にさせるようになった。

(41歳女性/13歳女子)

スイミングに通っているので、自然に目薬がさせるようになりました。目薬をさした後の拭き取り用のティッシュペーパーを、子供達が小さく缺でカットしてくれて、助かっています。

(40歳女性/12歳男子)

家ではなかなか一人でさせなかったのですが、学校に持っていかせると、させるようになりました。みんなの前で先生にさしてもらうのが恥ずかしかったんでしょね…また、友達に“自分でさせるんやあ、すごい”って言われたのがうれしかったようで、それから家でも自分で点眼するようになりました。

(38歳女性/11歳女子)

■苦手な目薬は、楽しみながら&キャラクターで楽しい体験にすることがポイント！

硬く目を閉じて点眼させてくれません。キャラクターの指人形をつけて興味を引きながらさしていました。

(37歳男性/7歳女子)

うちの子に目薬をさす場合、すぐに終わらせたいので「白目にして〜♪」とお願いして白目になったところを速攻点眼!!! (笑)

(41歳女性/14歳女子)

次男は、目薬が好きでわりと早い時期からキャラクターデザインの目薬を使用してました。小さい頃上手に目を開けられませんでした。今は自分でも上手にさせるようになってます。幼児はキャラクター目薬が親近感があり、受け入れやすいみたいです。

(43歳女性/14歳男子)

■目薬ごっこ、見せてやらせる…等、親子で目薬の点し方の練習しながら苦手意識を克服

目薬の液が落ちてくる瞬間に目を閉じてしまうので、自分が点眼しているところを見せたり、ぬいぐるみに目薬をさす真似をして、恐怖心をなくさせた。

(39歳女性/12歳男子)

プールの後やゲームをした時などたまに目薬を使うが、必ず口をあけてさしている。

(43歳女性/10歳男子)

■親御さんのちょっとした工夫で難なく点眼

目薬の容器の先端が怖いらしく、正面からさすのではなく横からスッと素早く近づけて先端が見えないよう工夫してました。

(45歳女性/16歳男子)

今回のアンケート調査結果をもとに、小児アレルギーの専門医の立場から、見解とアドバイスを頂きました。



末廣 豊（すえひろ ゆたか）医師

大阪府済生会中津病院小児科 免疫・アレルギーセンター
日本小児アレルギー学会評議員・理事

◆花粉症患者の低年齢化は進んでいます。

他人から分かりづらい子どもの花粉症は、集中力低下など生活の質への影響が心配。

花粉症に関する最近の報告を見ると、小児花粉症患者の増加、低年齢化が目立ちます。ご両親がスギ花粉症の場合、理論的には子どもはほぼ100%スギ花粉症になります。花粉症は生命を脅かすことはまずありませんが、集中力低下など生活の質（QOL）を著しく損ないます。さらに、小児の花粉症の症状は、鼻水や連続するくしゃみが出るというより、ぼーっとしているなど、他人からは分かりづらいという特徴がありますので、お母さんが注意してあげることも大切です。

◆乳幼児期からの花粉回避、屋内への花粉侵入の予防など、発症予防が大切。

いったん発症した花粉症が自然寛解する可能性は低いと考えられていますので、治療は発症予防として、乳幼児期から花粉を回避する、屋内への花粉侵入を予防することが大切です。発症してからは、花粉の飛散時期には花粉情報に注意し、早目からの予防治療が大切です。

◆目のかゆみは、手でかいてしまわずに、点眼薬で適切な治療を。

近年、花粉症の子ども数は増加しており、今回の調査でも年々微増していることが分かりました。この傾向は今後も続くと思われまます。

症状は大人と同様に、目のかゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまり等が起こります。特に目のかゆみに関しては、我慢できずに目の周りや目の粘膜を手でかいたり、こすったりしてしまいます。目のかゆみは手でかいたり、こすったりしても良くならず、粘膜が傷ついたり炎症が悪化する恐れがあるため、目薬でかゆみを抑えることが有効です。小さなお子さんは自分では花粉症という事が分からず、大人のような典型的な症状がそろわないこともあるので、周りの人が小さなサインを見逃さないことが大切です。

調査設計

- 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 調査目的 小児花粉症の実態を知っていただくことで花粉症対策の啓発に役立てる
- 調査・分析 ロート製薬株式会社
- 対象エリア 全国
- 調査時期 2014年12月2日～12月8日
- 調査対象 0歳～16歳までの子どもを持つ父母
※調査結果は回答した父母の実感によるもので、医師の診察結果による数値ではありません。
※子どもの人数に応じてそれぞれ回答いただいています。
- サンプル数 1,522名

【父母のサンプル属性】

	女性	男性	合計
20代	49	0	49
30代	583	28	611
40代	748	114	862
合計	1,380	142	1,522

【子どものサンプル属性】

年齢	人数	構成比
0歳	43	1.8%
1歳	69	2.8%
2歳	87	3.5%
3歳	109	4.4%
4歳	121	4.9%
5歳	162	6.6%
6歳	138	5.6%
7歳	184	7.5%
8歳	164	6.7%
9歳	188	7.7%
10歳	193	7.9%
11歳	175	7.1%
12歳	175	7.1%
13歳	155	6.3%
14歳	179	7.3%
15歳	157	6.4%
16歳	153	6.2%
合計	2,452	100.0%

性別	件数	構成比
女性	1,198	48.9%
男性	1,254	51.1%
総合計	2,452	100.0%

■子どもの花粉対策 5か条

他人から分かりづらく自分で対策が充分できない子どもの花粉による症状は、お父さんお母さんの注意や普段からの心がけがとても大切です。普段の生活の中で以下の5つを気を付けてください。

- 1) 花粉飛散情報をしっかりとチェックしましょう。
- 2) 屋外では、花粉との接触を避ける工夫をしましょう。(マスクの着用など)
- 3) 屋内に花粉を入れないように工夫しましょう。
- 4) 目に症状が出てしまった場合は、かいて症状が悪化しないように目薬の使用を。
- 5) 子どもの症状は気づきにくいので、サインを見逃さないことも大切です。

■子どものための目薬のさし方アドバイス

- ・目薬を点眼する際には、手を洗って清潔にし、まつげやまぶたに触れないように点眼することが大切です。
- ・点眼が苦手な方は、下まぶたを少しひっぱり、「あかんべえ」の状態にして、点眼するのもおすすめです。
- ・自分自身で点眼できないお子様に点眼するには、大人のひざの上などで頭を固定して点眼しましょう。
- ・用法用量を守り、しっかり目の症状を治療しましょう。

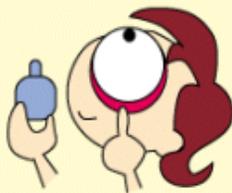
目薬の正しいさし方

① まず手を洗って清潔に



手に付いた汚れを落とすため、必ず石けんでいねいに洗いましょう。その後、しっかりすすぎます。

② 片手であかんべえをする



顔をしっかり真上に向け、目薬を持っていない方の手で下まぶたを軽く引き下げて、あかんべえの状態にします。

③ まつげやまぶたに触れないように点眼する



あかんべえの状態で目薬の容器の先が、まつげやまぶたに触れないように気をつけて、指定の分量を目にさします。

④ しばらく目を閉じる



目薬をさした後は、1分くらい軽く目頭を押さえじっと目を閉じているのが効果的です。それから目のひちや皮膚についた余分な点眼薬をティッシュ等でふき取って下さい。

小さな子どもにさしてあげる場合は、あお向けに寝かせるのがベスト。お母さんのひざの上なら安心です。



ROHTO

■子どもの花粉対策 オススメの商品

ロート製薬では、1987年に花粉対策目薬「ロート点眼薬アルガード」を発売して以来、四半世紀にわたって花粉症の研究に取り組んできました。近年では、子どもの花粉対策を考えた、目薬、鼻炎用内服薬、マスクなど症状や使用場面に合わせて選んでいただける幅広いアイテムをラインナップしています。

点眼薬



第3類医薬品

ロート アルガード® こどもクリア

お子様の目のことを考えて処方設計した点眼薬。

なみだに近いpH、防腐剤無添加※、無香料・無着色。

花粉時期などの目のかゆみ・炎症に有効成分がしっかりと効果を発揮します。

また、目のかゆみを考えてさし心地にこだわりました。かゆみを感じている腫を考えた清涼感レベルに設定。しみないのに気持ちのいいさし心地です。

点眼薬



第3類医薬品

ロート こどもソフト®

やさしいさし心地にこだわった子ども用目薬。
防腐剤フリー※処方。目のかゆみ、充血に。
涙に近いpHでしみないさし心地です。

内服薬

錠剤
タイプ



第2類医薬品

しょうせいりゅうとうじょう

新・ロート小青竜湯錠 II

鼻水や水様のたんを伴う咳が出る方の、鼻炎・花粉症に。
5才から服用できる1日2回タイプの漢方薬。

ジェル

爽快
タイプ



マイルド
タイプ

雑品

ロート アルガード® 花粉侵入防止ジェル

鼻の外側に薄く塗り広げて花粉の鼻腔内への侵入を防ぐ、“ぬる透明マスク”。
イオンバリアによる花粉侵入阻止とキトサンによる花粉抑制のダブルの力で花粉対策が出来ます。

マスク

使いきりタイプ
個別包装3枚入り!

かわいい
シール付き
(6枚)



雑品

ママはぐ® こどもマスク

インフルエンザウィルス飛沫カット
機能つき抗菌フィルターを使用した、
高機能不織布マスク。
子ども用の小さめサイズです。

※防腐剤(ベンザルコニウム塩化物、パラベン)を含んでいません。